

企業理念

わたしたちは
確かなものづくりを通して
豊かな社会の実現に貢献します

行動指針

- ・ 信頼を築く
- ・ 技を磨き、伝える
- ・ 夢をいだき、挑戦する

企業行動5つの誓い

- 法令遵守** ■ その行為は**法律に違反していないか**
- 企業倫理** ■ その行為は**企業理念や倫理に違反していないか**
- 社会常識** ■ その行為は**社会の常識か**
- 社会の目** ■ その行為は**社会の目、安心、安全にそむいていないか**
- 自分の心** ■ その行為は**間違いないか、自分の心に問いかける**

CSR活動への取り組み

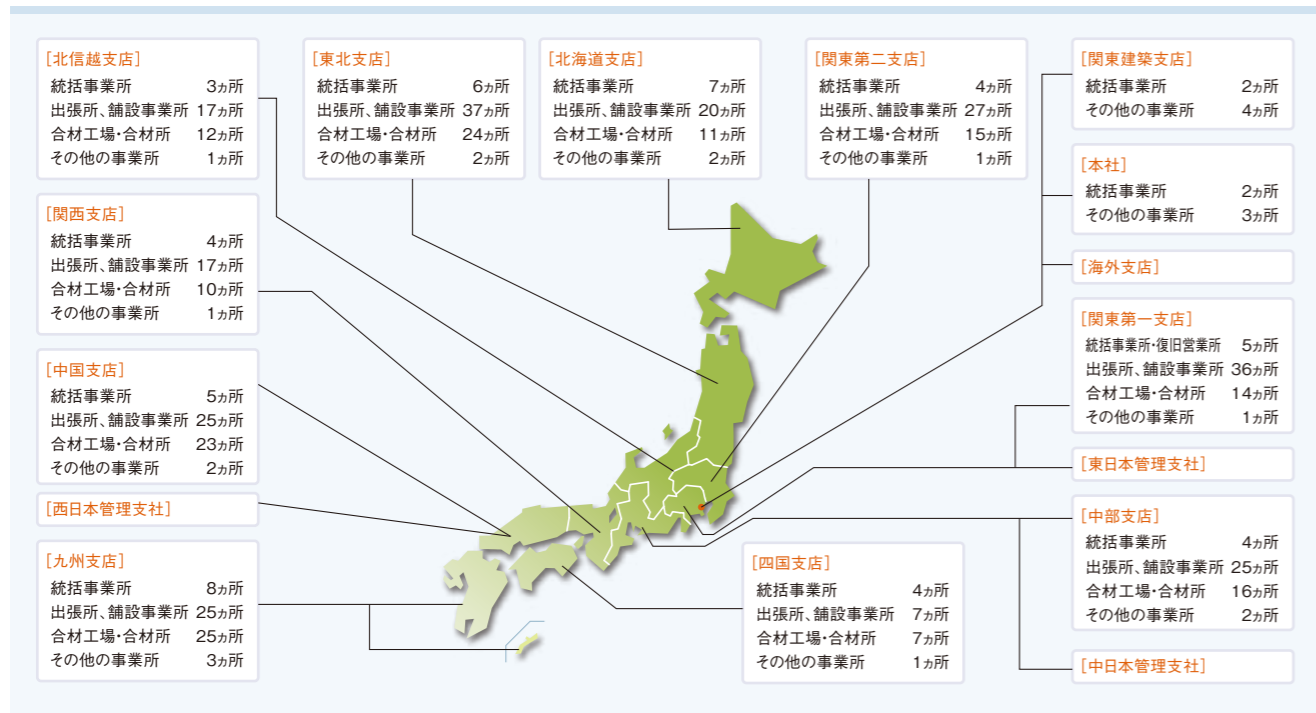
- 1934 日本石油(株)道路部と浅野物産(株)道路部の合同により「日本鋪道株式会社」を設立
- 1993 企業行動倫理委員会設置
- 1994 環境保全活動推進のための諮問機関として環境管理委員会を設置
企業理念・行動指針制定
- 1995 シンボルマーク改訂
- 1998 環境に関する基本理念と行動指針を表した環境保全活動指針を制定
- 2003 日本鋪道株式会社が、新日石エンジニアリング株式会社を吸収分割して「株式会社NIPPOコーポレーション」に商号変更
法令遵守(コンプライアンス)体制構築
- 2004 環境報告書創刊
- 2005 CSR体制構築
- 2006 企業理念・行動指針改訂
- 2007 CSRレポート創刊
- 2009 「株式会社NIPPO」に商号変更

(2012年3月31日現在)

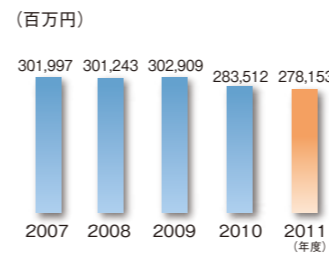
社 名 : 株式会社 NIPPO
 英 文 社 名 : NIPPO CORPORATION
 設 立 : 1934年(昭和9年)2月
 本 社 所 在 地 : 〒104-8380 東京都中央区京橋1-19-11
 TEL 03-3563-6751(代表)
 代 表 者 : 代表取締役社長 水島 和紀
 資 本 金 : 15,324百万円
 事 業 内 容 : 建設事業、アスファルト合材等の製造・販売事業、
 開発事業およびその他の事業
 従 業 員 数 : 2,123名(男性2,010名、女性113名)
 ホームページ : <http://www.nippo-c.co.jp/>

株式会社NIPPOはアスファルト舗装工事を中心とする舗装・
 土木工事およびアスファルト舗装の材料であるアスファルト合材
 の製造・販売を中核事業としています。
 舗装・土木工事の対象は、一般道路、高速道路、レーシング
 コース、空港から、市民の憩いの場となる公園、テニスコート、サッ
 カーグラウンド、さらには庭先舗装まで広範囲に及びます。また、
 製造したアスファルト合材は当社の工事で使用するだけでなく、
 ほかの舗装工事業者にも販売しています。
 このほか、マンション等の建築工事、戸建てをはじめとする宅地
 や都市型マンションの開発事業、石油精製などのプラントエンジ
 ニアリング事業および土壌浄化事業等の戦略事業を取り込み、
 事業基盤を強化しています。
 2012年4月1日をもってエネルギー事業本部の事業を会社分
 割し、日陽エンジニアリング株式会社との統合新会社である「JX
 エンジニアリング株式会社」へ同事業を承継しました。

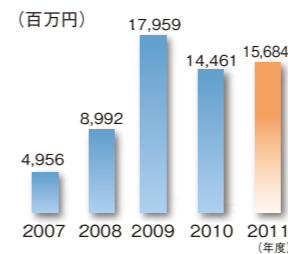
事業所一覧 (2012年4月1日現在)



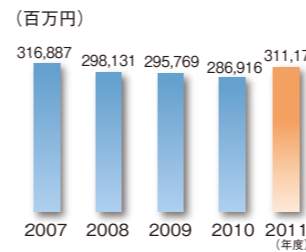
売上高



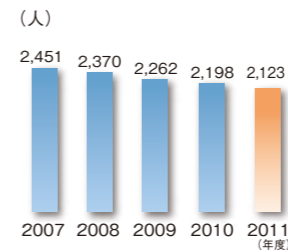
経常利益



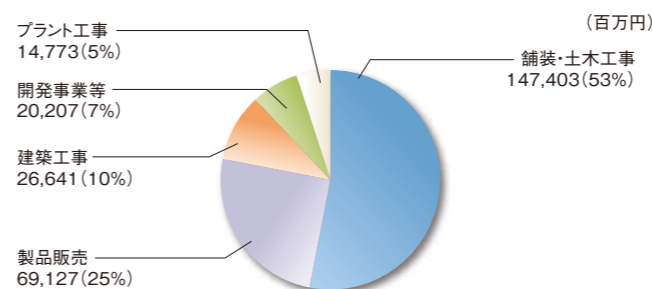
総資産額



従業員数



事業分野別売上高 (2011年度)



会社概要 1

トップコミットメント 3

NIPPOの事業 5

特集 東日本大震災を受けて 7

■ マネジメント報告

コーポレート・ガバナンス 9

CSRマネジメント 10

コンプライアンスと品質保証体制 11

■ 環境・安全報告

安全管理 12

環境マネジメントシステム 13

舗装事業における環境保全活動 15

舗装事業での環境技術 17

戦略事業における環境・安全配慮 19

■ 社会性報告

お客様の信頼を得るために 21

従業員とのかかわり 22

社会とのコミュニケーション 23

第三者意見 24

読者の声を受けて 25

編集方針

CSRとは、Corporate Social Responsibilityの略で、「企業の社会における信頼性」と訳されます。このCSRレポートでは、株式会社NIPPOが社会から信頼されるために取り組んでいる活動を紹介し、一般の方にとってなじみの薄い建設業を事業活動の中心とする株式会社NIPPOと、経済、環境、社会とのかかわりについて、多くの方々に知っていただくことを編集の基本方針としています。このレポートをツールとして当社とかわる多くの方々とのコミュニケーションをさらに充実させていきたいと思ひます。

対象範囲と対象期間

対象範囲：株式会社NIPPOの本社、管理支社3ヵ所、支店12ヵ所、統括事業所・復旧営業所54ヵ所、現業事業所416ヵ所(海外を除く)。
 対象期間：2011年度(2011年4月1日から2012年3月31日)
 一部には、時期を明示した上で2011年度以前の情報と2012年9月までの最新情報を掲載しています。

確かなものづくりを通して 社会からの信頼に応えCSRを実践します

株式会社 NIPPO
代表取締役社長

水島和紀

昨年度の日本経済は、東日本大震災および原発事故の影響や、海外景気の減速、長引く円高の影響などから先行きに対して不透明感が続きました。民間設備投資も回復の動きが遅く、公共投資については震災復旧対応で一部に持ち直しの動きは見られたものの、それを除くと減少傾向が続いており、厳しい経営環境が続いております。この環境は一過性のものでなく日本経済の構造的なものであり、非常に強い危機感をもっています。

しかし、このような厳しい時にこそ、企業体質の強化に向けた間接コストの削減や、各事業・各地域の特性に対応した体制の構築を一層進め、競争に勝ち抜く会社をつくる絶好のチャンスと捉えています。

■ 震災からの復興

未曾有の事態であった東日本大震災からはや1年半が過ぎようとしています。

これまでは、NIPPOの持つ全国的な組織力・機動力を発揮して、被災地への支援体制を構築し、緊急支援物資の輸送はじめ、各地域の基幹道路や生活道路の緊急復旧工事、民間企業の施設復旧工事などへの対応を積極的に行ってきました。

現地では復旧から復興へと場面は移りましたが、これからもNIPPOの技術、施工力、機動力、企画提案力を活かして、復興の一翼を担う役割を果たすとともに、しっかりと社会の役に立っていく所存です。

■ 人の命を守る

2011年度には残念ながら死亡災害が1件発生してしまいました。「人の命を守る」。これは、企業がまず果たすべき根源的な社会的責任です。死亡事故を絶対起こさないために取り決めた「安全作業4つの誓い」を、初心に戻って徹底します。

- ①重機・車両後退時「誘導合図の確認」
- ②土砂崩壊「土止めの確認」
- ③転落・墜落「安全帯の確認」
- ④非定常時作業「装置停止の確認」

「死亡事故を起こさない」からゼロ災までの道のりは遠いように見えますが、死亡事故を起こさないことを毎日の作業の中で徹底して行い、これが結局のところゼロ災への近道となります。

■ 確かなものづくり

NIPPOの企業理念にある「確かなものづくり」の言葉には、環境に配慮し、安全に、世の中の決まりごとをしっかりと守り、確かな品質のものをお客さまに届ける、という意味が込められています。この理念にもとづいた行動ができなければ、先輩たちが何十年という時を重ねて築き上げてきた会社の信用や社会からの信頼を、一瞬にして無にしてしまうことになります。

「ものづくり」の原点は現場です。

「確かなものづくり」ができる現場力を維持していくこと、これは社会に対するNIPPOの責任であり、ものづくりの現場に携わる者の使命でもあります。一人ひとりが「現場力の強化」に関心を持ち行動していきます。

■ 環境問題と技術開発

NIPPOが取り組む「ものづくり」の一つに「環境にかかわる研究・技術開発」があります。これまでも地球温暖化対策やCO₂発生抑制に関して、中温化技術や遮熱性舗装の開発など研究開発を通じた取り組みを続けています。

2011年度には、NIPPOが開発した遮熱性舗装が世界道路協会の論文コンペティションでベストイノベーション賞に輝きました。世界の舞台でも通用する技術であると認められたということです。海外でも関心が高いこのような環境技術の分野において、世界に通用する「Only One」の技術を持ち、環境問題の改善に貢献することで、今後の市場での優位性を発揮する手段にもなると考えています。

■ 社会貢献活動

「確かなものづくり」と同様に、一人ひとりが考えながら取り組むものとして社会貢献活動があります。やらされるのではなく、できることを積極的にやるという姿勢で取り組んでいます。地域に密着した拠点である現業事業所での清掃活動やボランティア活動、全社で取り組む「世界の子どもにワクチンを日本委員会」への寄付や、JXグループの「童話の花束」への協力など、これからもそれぞれの立場でできることを考え、取り組んでいきます。

■ 最後に

2003年10月から、NIPPOとしてともに歩んできたエネルギー事業本部の事業は、2012年4月1日をもってNIPPOから会社分割して、日陽エンジニアリング株式会社との統合新会社である「JXエンジニアリング株式会社」に承継されました。これからは、JXグループの一員として、新会社との緊密な連携を図っていきます。

今後のNIPPOは、舗装事業、建築事業、開発事業等を中心に、一人ひとりが社会の声に耳を傾け、社会に貢献していくことを念頭に、その期待に応える技術やサービスを提供し、ステークホルダーの皆様から、応援されつづける会社でありたいと考えています。



NIPPOの事業

事業活動を通じて、社会のさまざまな場面で当社の技術力を活かした「確かなものづくり」を実践し、豊かな社会の実現を目指しています。

土壌浄化事業

事業を通じて汚染を社会全体に拡散させないことを念頭に、「土壌浄化」工法の提案に日々努めています。また、搬出する汚染土壌の管理伝票購入費の一部は、土壌汚染対策助成金に使われています。

開発（不動産）事業

デベロッパーとして、宅地建物分譲事業、マンション分譲事業「Le Cinq」シリーズ、オリジナル住宅事業「GRATIAE」シリーズ、賃貸事業「ABAS」シリーズなどを全国で展開し、環境と安全に配慮した街づくりに取り組んでいます。

海外事業

アジアやヨーロッパなどで現地ニーズに合った道路や空港、テストコースづくりを行ってきました。また、近年では日本の政府開発援助（ODA）事業として中央アジアやアフリカなど3カ国で道路整備事業などを施工、発展途上国でのインフラ整備に貢献しています。

建築事業

建築分野のエキスパート集団を軸に、民間・官庁工事の実績を積み重ねることで技術の蓄積を行い、着実にお客様の信頼を築きつつ、事業を発展させてきました。さらに、環境負荷低減に配慮した取り組みを充実させ、地域に合った夢のある快適な空間を提供し続けます。

舗装・土木事業
高速道路

舗装・土木事業
スポーツ施設

舗装・土木事業
空港

舗装・土木事業
一般道路

製品製造・販売事業



横浜合材工場



半たわみ性舗装用の低炭素ポリパック ※P.18参照

アスファルト合材を製造・販売する工場を全国に展開しています。これらの工場では、舗装工事で現場から回収された舗装廃材を受け入れ、その全量を自社工場内で再資源化、再利用するリサイクルシステムを構築し「循環」を完結しているほか、燃料のガス化や省エネ機器の導入等によるCO₂排出削減に取り組んでいます。

舗装・土木事業



三木総合防災公園（兵庫県）



横浜馬車道（神奈川県）

1934年の創業以来「道づくり」を中心に空港、スポーツ施設など、幅広く社会インフラの整備を行っています。近年は、環境に対する国民意識の高まりを受け、「CO₂排出量を削減する低炭素舗装」や「ヒートアイランド現象を抑制する舗装」などを国内で初めて開発し、沿道環境や地域環境の保全にも注力しています。